

こころ新聞

第4号
2010年
3月 日発行
こころ新聞部
玉川学園子どもクラブこころ児童館
町田市玉川学園3-35-45
TEL042-710-1475

☆特集・地球温暖化☆

ちきゅうおんだんか

レッドリスト 野生のトラ

みなさん、今年は何に年でしょう。今年がトラ年ですね。さて、このトラはどうやって、エサをとるのでしょうか。

トラのエサのとり方は、ライオンとはちがいます。ライオンは、仲間でおいかけて相手をたおします。トラは一頭でひそかにまちぶせて、大きなスイングユウをたおすことができます。



でも、かりに成功するのは、十回おそって、一〜二回くらいです。そして、いまではもっと成功しづらくなっています。

なぜなら、第一に、地球温暖化の影響（えいきょう）で、トラの獲物（えもの）が減ってしまい、食べるものがなくなってしまうからです。

第二に、トラが良く住む森林が減っていることも影響します。

トラのしま模様（もよう）は、獲物に見つからないように木に見えるためにできています。

そして、今では、木が伐採（はっさい）され、獲物に見つかって捕まえづらくなっています。第三に、トラが密漁（みつりょう）されて、毛皮や薬などに使われていることも原因（げんいん）のひとつです。

この三つの理由（りゆう）のせいで、野生のトラは、地球上に400頭しかいません。よって、トラはレッドリストにはいることになってしまったのです。

（写真・文・絵

小5 おかもとはわ）

きみたちは動物たちの危機を救えるか？！

☆絶滅危惧種

ぜつめつ きぐしゅ

トラが入ることになってしまった「レッドブック」とは、国際自然保護連合が1996年に絶滅のおそれの高い生物を赤い紙に印刷して出版したのが始まりで、2007年現在、絶滅のおそれがある「絶滅危惧」の動物は7850種とされています。

トラの他にどんな動物がこの絶滅危惧種になっているかというところ、世界ではライオン、アフリカゾウ、オオワシ、アメリカワニ、クロサイ、日本ではイリオモテヤマネコ、タンチョウ、カグラコウモリなどみなさんも聞いたことのあるような動物も実は絶滅の危機にさらされているのです。

現在地球上では、これらを初めとする絶滅危惧種が1日1種のペースで消えていると言われています。

動物が絶滅の危機に追いやられている原因のほとんどは、実は人間が作り出しています。

動物のすみかである森林や草原の破壊、動物の肉や皮を手に入れるために行われる乱獲、川や海、土壌の汚れや、地球温暖化なども原因の一つに上げられています。

そのために僕たちができること

とはなんでしょうか。例えば、

- ① ゴミを捨てないことで自然を大切にすること
- ② 省エネやリサイクルなど環境に優しい行動をする。
- ③ めずらしい動物をむやみに飼育せず、ペットは最後まで責任を持って飼育する。
- ④ 野生動物にエサをやらない。などなど、皆さんの生活の中で取り組めることがたくさんあります。



みんなで動物たちの未来を守ろう！
（高2 さとうたけし）

トラとネコ

トラの仲間といえばネコ！ネコとトラは、体つきや性格など、けっこう似たところはあります。しかし、ちょっとしたところがちがいます。

ネコはきげんのいい時はのどをゴロゴロさせますが、トラはできません。そのかわり、ウツンとかわいくはなをならしたり、ウオーツとほえたりできます。

トラの名前がついた魚

トラの名前がついた魚がいます。お待ちせいたしました。

トラはむかしから強さですがが美しい動物として、人々に強い印象を与えていました。名前に「トラ」の名前がついた魚は、どれも体にしまもようがあり、トラに似ています。

でも、体のまようはにいていても、力強さは、とてもトラにはおよびません。

トラとライオン

トラとライオンといえば、どちらが強いかわっていますか？

野生では、同じ場所に生活してないので、戦うことはありません。ですが、人間が戦わせたことがあります。

有名な例では、古代ローマ時代に、トラとライオンを戦わせたことがありました。

そのほかに、イギリスの動物園で、トラとライオンがけんかしたことがあります。

この時の勝負は、勝ったり負けたりでしたが、こんな勝負は二度とさせたくないですね。



編集後記

ようやくの4号です。お待たせいたしました。

新聞部初期から注目してきた地球温暖化というテーマも、これようやく一区切りと言ったところなんです。

曖昧な知識のままスタートしたこの特集も、新聞を作り続ける中で徐々にこの問題がいかに深刻かという現実を理解するに至りました。

地球の死が決して非現実的ではなくなってしまうこの世の中が正直時々怖くなることがあります。

その一方でクーラーに頼りまくりの生活。

一人一人がそんな矛盾を打開すればきっと地球を守ることにつながるのだと思います。

マイケルジャクソンも『誰か』がやっつてその『誰か』って誰だみたいなことを言っていました。そろそろ本気で考えないといけませんね。

まさに、「ヒール・ザ・ワールド」。